


2021年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2022/9/29

団体名	NPO法人 ながいく	活動タイトル	市民主体の子育てサロンとその拠点づくり事業	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景	
● 地域の望ましい社会状況(ビジョン)	「子と親の一人一人に、寄り添い支える人が必ず存在する社会の実現」が当団体の目指すビジョンである。具体的には、子育て支援に関わる者や子育てをしている親でなくとも、子育てに悩みごとを抱える親子に積極的に関わり見守る社会である。子育てで起きる様々な問題の多くは、自分は一人ではないと感じられることで解決できる。話を聞いてくれる人や寄り添い助けてくれる人がいることで、子育てはとて豊かで幸せに感じられる。子育て支援に関わる人の数を増やし、親子がどこに居ても必ず支えてくれる人のいる社会をめざす。		 <p data-bbox="2243 590 2792 768">10月3日(月)、名古屋外国語大学の学生が卒業論文の一巻として、子どもたちと小さな花壇作りを行った。お花に名前をつけて札をつけるなど、子どもたちも大変楽しんでた。いつも庭の手入れや菜園を世話しているおじいちゃんも加わり、良い交流の機会となった。</p>	
● 団体の社会的役割(ミッション)	『助けを求めること・手を差し伸べること・手を掴むこと』ができる練習の場を作る』をミッションとする。具体的な活動としては、親子や学生・近隣住民などが一緒に参加できるサロンや講座などを企画し、ゆるいつながりを作るための場をつくる。子育てを支え合える環境にするには、子育て家庭はもちろん、支えようとする側にも支え合うためのコミュニティを持つことが重要であることから、このミッションを設定した。			
● 団体の活動基盤	①「ながいくの人がいるなら大丈夫」と感じられる、信頼関係を大切にして活動できる人材を育成する。 ②子育てや生活の一部を協力し合うような場作りのため、ゆとりのあるスペースを用意する。 子育てサロンを広域で開催するため、店舗の一部や公共施設など、企業や行政と協力する。 ③現在の活動場所を維持するための財力を持つ。 ④ひとり親家庭や困窮家庭など、特に支援が必要な人に呼びかけることができるよう、他団体とも連携して情報発信することができる体制をつくる			
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)	
<p data-bbox="154 856 1101 993">①お外で遊ぼう ほぼ毎週月曜日に、未就園児の親子同士や地域の人との繋がりを作ることを目的に、コミュニティ菜園や外遊びを行った。特に菜園作りは、市内のおじいさんと大学生が積極的に関わり、そこに小さな子どもたちが加わるような光景が多く見られ、パパママにも大変好評だった。</p> <p data-bbox="154 1024 1101 1192">②専門家との相談会 保育士・保健師・助産師などの専門職の協力を得て、リズム遊びや相談会・座談会を開催。コロナ禍に外に出ることをためらう、予約を取るほどの悩みはないと感じていた保護者にとって、貴重な場となった。「親子にとって相談の場が少ない」と言う市民の感覚を行政と共有でき、共通の課題を持つことができた。</p> <p data-bbox="154 1224 1101 1371">③出張子育てサロン 私たちが開催している子育てひろばを参考に、マニュアルを作成し、それを元に名古屋外国語大学のゼミの学生と、出張子育てサロンを行った。2回の開催でマニュアルも修正を繰り返し、良い者になってきた。</p>			<p data-bbox="1101 856 2050 1024">①お外で遊ぼう 1日、概ね4・5組の親子が遊びに来てくれた。コロナ禍で「子どもとの行き場がない」という悩みに対して、場を提供できた。また、畑の世話・草を抜きをしてくれるおじいさん、ゼミの課題をこのイベントに設定してくれる大学生などからは、「ながいくの活動は子どもとさりげなく関わって良い」との感想があった。</p> <p data-bbox="1101 1056 2050 1203">②専門家との相談会 講座などは、産前のパパママ教室が中止になっている世代の親子が多く、初めてゆっくりと相談ができたという保護者が多かった。電話をして助産院や保健センターを利用した、という声もあり、これからも相談窓口と繋げるための工夫が必要だと感じた。</p> <p data-bbox="1101 1234 2050 1402">③出張子育てサロン 思った以上に多くの学生が関わってくれて、1・2回目を通じ10人以上の学生が準備や当日の運営を担ってくれた。特に「マニュアルで一通りのことが分かるので、安心して取り組めた」との意見が多くあり、市民や学生に自主的に活動してもらうためのツールとして、マニュアルや備品の準備は重要であると感じた。</p>	
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題	
<p data-bbox="154 1493 1101 1692">「親子同士の繋がりをつくる」ことを目標としてスタートした事業だったが、結論として「まずは自分たちが色々な人たちと協力することで、懐を広げておく」ことの大切さを感じた。特に年配の方たちについては、「アドバイスをしたいことがあっても、直接伝えない」などをお願いし、感じたことはスタッフと食事を取りながらお聞きするなど、円滑な人間関係を心がけた。特に「孤立することはあっても、近所付き合いの煩わしさに巻き込まれたくない」と考えている世代には、有効なやり方であった。</p> <p data-bbox="154 1703 1101 1829">また、大学生ボランティアと行う事業では、マニュアルを用意する・事前の打ち合わせを綿密に行うなどして、当日の運営では学生がお手伝いにならないよう、主体で動きやすいようにした。学生からは、初めて赤ちゃんに触れ合ったという意見が多く、将来子どもを持つことのイメージができたら良いと感じた。</p> <p data-bbox="154 1839 1101 1976">地域との連携は、常設・継続的な活動を行うことで、ハブとしての機能を持つことが大切である。週1回、同じ日に短時間でも活動を行うことは、運営を手助けしてくれる人にとっても、利用者にとっても分かりやすく、安心して集まりやすい。大きなイベントで多くの人を集める以上に、マニュアル化しやすく、繋がり作りに有効である。</p>			<p data-bbox="1101 1493 2050 1797">今回をスタートとして、私たちのようなNPO法人ではなく、育休中の家族や友だち同士、地域のボランティア団体などが、空いている日時に「出張サロン」を開催するような準備を進めていく。私たちの拠点で、マニュアルやおもちゃの貸し出しを行い、誰でも出張サロンを開催することで、多くの人が少しずつ繋がることのできる環境を整え、子育ての孤立を防ぐことが、これからの目標である。親子が抱えるケースによっては、支援団体の助けが必要になってくるが、多くは市民同士の繋がりや対話をできる場があれば、解決の方向に向かうことが多い。長久手のように、多くの住民が出産前後で転入して来るまちでは、自然発生的に市民活動が起こりやすく「親子向け教室」のような営利目的のものが多いが、自主的に仲間を作る小さく弱めのコミュニティを、多く作ることが課題である。</p>	
			■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）	
			この1年間の活動を通じて	長久手市で子育て支援の仕組みを作るため、第一歩となるチーム作りを達成しました。
			■ 受益者の具体的な変化（自由記入）	
			ほとんどの親子が1・2年で育休を終え、地域との関わり合いが薄くなっていくが、「ここに居場所があると思うと安心する」との意見を多くいただき、少なくとも地域に繋がりを感じてもらえたと思う。また、色々な年代の人が子育てを支援することが、思っていたより気楽にできて楽しいと言って貰えたことは、大きな成果だった。	